

平成貳拾九年
鵜飼の篝火が灯る頃、
犬山最古の宿が蘇る
『温故創景』
灯屋迎帆楼





木曾川対岸より犬山城と灯屋 迎帆楼



ラウンジ 提灯の温かい灯がお迎えいたします



2階貸切風呂：犬山城と木曾川



客室 特別室『灯台木（みずき）』

国宝犬山城の塹。

その城郭内にあり木曾川沿いにあるこの場所は当時城内の馬場であったと言われています。(写真①)

対象の建物は、木曾川を行き交う帆掛舟を迎える料理旅館として大正8年から創業した「迎帆楼」です。

迎帆楼は創業当初の料理旅館時代、木造2階建の建築物で、野口雨情等の文人墨客に愛されるお宿でした。(写真②)

防災上の理由で、創業から55年後に木造から地下2階地上5階建の鉄筋コンクリート造に建て替えられました。

客室数は10室から57室になり、冠婚葬祭なども可能な大型旅館となりました。(写真③)

このたび木曾川沿いに佇む迎帆楼は、船乗りにとって灯台のような存在であったことや、お客様をいつでも暖かくお迎えし、犬山の町や人々を、犬山祭りの山車の提灯のように明るく照らす存在でありたいという想いからブランディングコンセプトも新たに「灯屋 迎帆楼」として生まれ変わりました。

この「灯屋」という言葉には、近年の交通の発達により、犬山市内に宿泊する方が減少し、観光地としても寂しい期間があり、そんな犬山城下町を活性化し、そのシンボルとなる意味も込めております。

建築デザインのコンセプトは「温故創景」。旧きをたずね、あらたな景にめざめる。

創業当時の内装や建具のデザインなど、古きよき時代の歴史性を継承しつつ、現代的で快適な上質空間を心がけて計画しました。

旅館の北側に流れる木曾川に沿って5室、南側の犬山城側に5室の料理旅館時代と同じ部屋数の計10室にしました。

木造時代も屋根は切妻瓦屋根で、今計画も切妻、入母屋屋根で設計しました。(下部写真参照)

犬山城の景観を損なわずに、城と調和した景観をつくりだしております。(写真④、下記立面図参照)



写真①: 馬場→灯屋迎帆楼の敷地



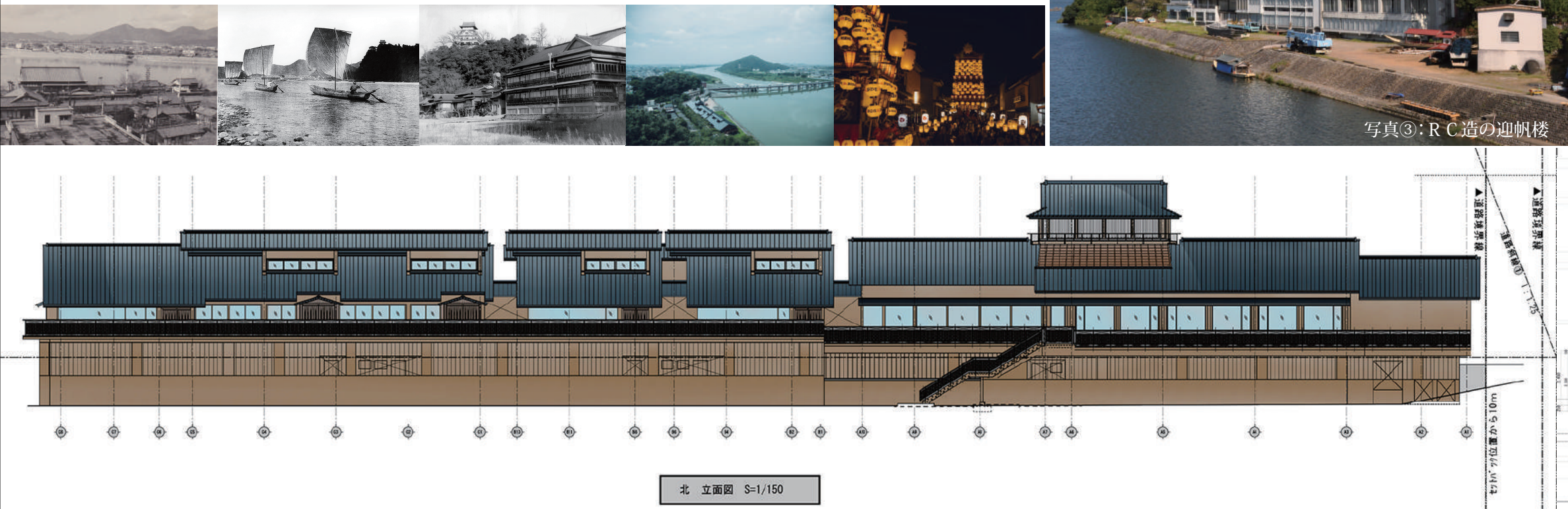
写真②: 料理旅館時代



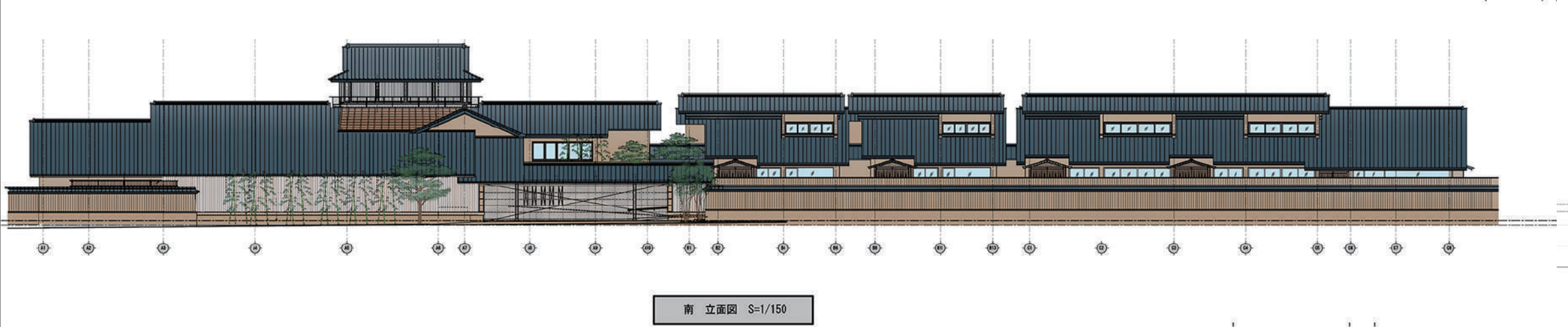
写真③: R C造の迎帆楼



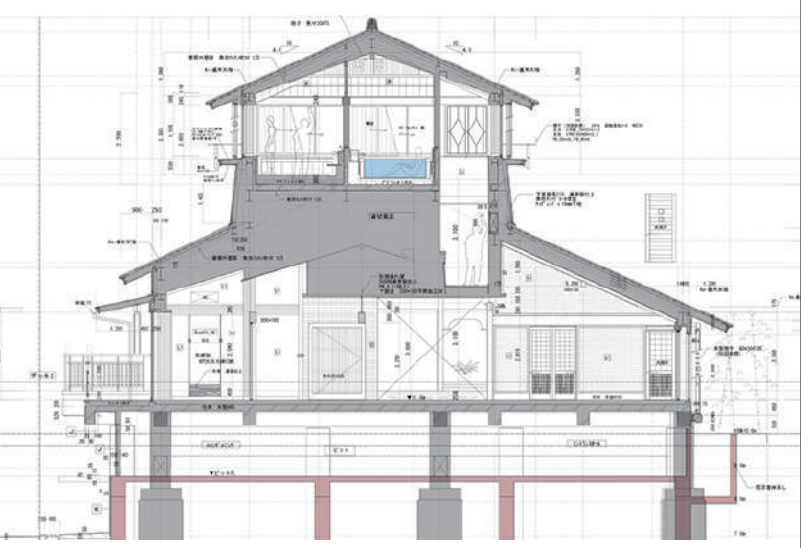
写真④: 完成パース



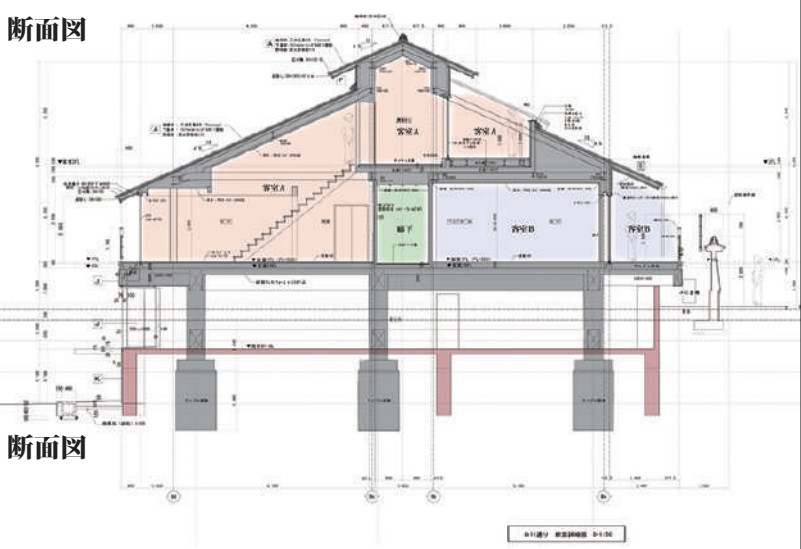
北 立面図 S=1/150



南 立面図 S=1/150



断面図



断面図

ラウンジには、灯屋の象徴となる提灯を灯してお客様をお迎えする空間としました。

ダイニングは、個室とし、一部の客室は可動間仕切りにより2室1室として大人数の宿泊者にフレキシブル対応できるようにしております。ダイニングの障子は料理旅館時代の窓のデザインを取り入れ、新たなモダンな空間に旧旅館時代の名残を残しました。(写真⑤、⑥)

江戸時代、この場所が馬場であったことから、馬蹄をモチーフにしたデザインも照明等に取り入れています。(写真⑦)

2階の貸切風呂からは犬山城と木曽川を同時に眺めることのできる絶景風呂となっております。

客室1部屋から木曽川、犬山城の両方を眺められるように、メゾネットタイプを採用しました。

ラウンジから一番奥のお部屋2室については、1階のテラスからでも木曽川、犬山城の両方を眺めることのできる特別室となっております。このように宿泊者が滞在する場所から犬山城、木曽川を楽しむことのできることを意識しました。

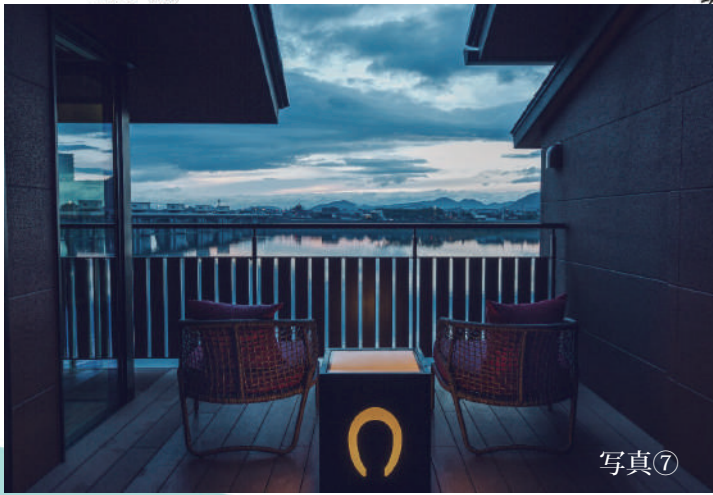
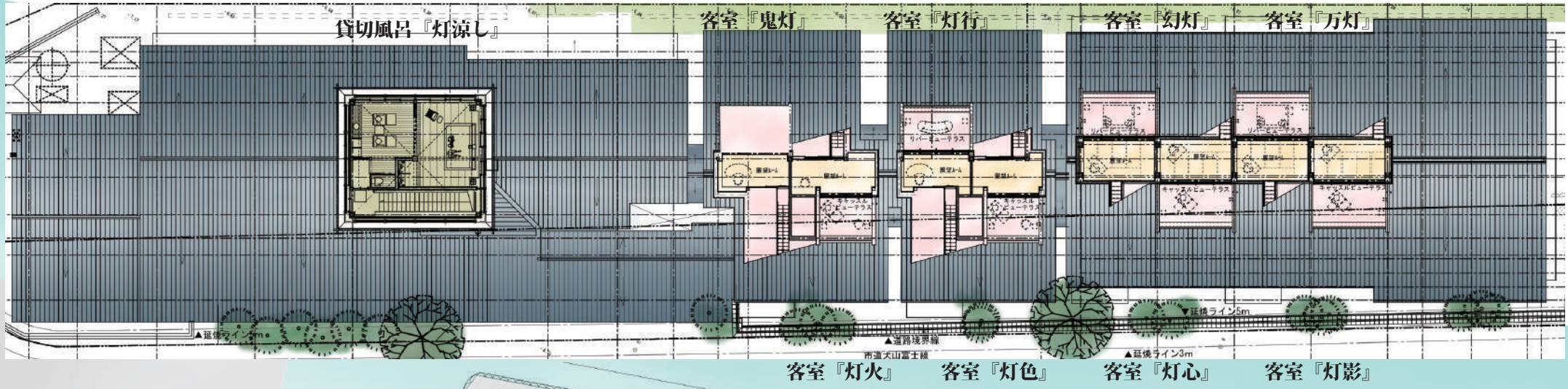


写真⑤



写真⑥

2階平面図



写真⑦

1階平面図

